

# 活動報告書

報告者氏名：勢登 睦

所属：鳥取県立鳥取養護学校

記録日： 2013年2月12日

## 【対象生徒の情報】

- ・ 学年  
中学部 2 年生の男子 1 名
- ・ 障害名  
筋ジストロフィー 知的障害
- ・ 障害と困難の内容
  - ・ 日常生活動作全般にわたり介助が必要。着替え、排泄は全介助。食事は自力で摂取することができる。
  - ・ 日常の大部分を電動車いすに座って生活し、手元のジョイスティックコントローラを確実に操作し安全に運転する。
  - ・ 自信を持って学習集団の前で発表したり、みんなと一緒に学習したりすることに困難さを感じている。

## 【活動目的】

- ・ 当初のねらい  
自信を持って学習集団の前で発表することに困難を感じている対象生徒に、自信や意欲を持って、日頃学習していることの成果を発表する機会を作りたいと考えていた。対象生徒は、学校生活において電動車いすでいろいろな場所に散歩することが好きであり、また確実にパソコンや iPad のタッチパネルを操作することができる。さらに、周囲の環境を観察することが好きで、いつもと違うところをすぐ的確に見つけ出し、一緒に活動している教師に報告することができる。本人が得意にしていることを活かした学習活動を取り入れ、生徒自身の自信や意欲を高めることを目的に、総合的な学習の時間で次のような仮説を立て実践に取り組んだ。  
(仮説)  
美化活動をテーマにし、学校の校舎内や学校周辺の環境美化について調査し、校舎内や学校周辺を探索しながら iPad を使用した写真・動画撮影活動を行うことで、生徒自身の意欲がさらに高まり、自信を持って調べ学習や発表活動に取り組めるだろう。
- ・ 実施期間  
2012年5月～11月 週2時間の総合的な学習の時間
- ・ 実施者  
勢登 睦 (教諭)
- ・ 実施者と対象児の関係  
対象生徒の学級担任

## 【活動内容と対象生徒の変化】

### ・対象生徒の事前の状況

総合的な学習の時間に実施した校舎内及び校地内の観察では、ゴミが比較的たくさん落ちているところや雑草のたくさん生えているところなどを見つけて、担任まで報告することができた。

### ・活動の具体的内容

電動車いすに座ったまま確実に撮影ができるよう、生徒本人の専用テーブルを車いすに装着し、「どっちもクリップ」(YAZAWA 製 写真1参照)や滑り止めゴムを用いてiPadをしっかりと固定した。発表用のプレゼンテーションは、生徒自身が操作をすることに慣れているノートパソコン(OS Windows7)上のMicrosoftPowerPoint2007で作成しPDF変換した上で、iPadに移動した。アドビリーダーアプリで生徒自身がスライド操作を行った。撮影した画像や動画を効果的に発表するために、有償アプリであるiMovie(アイムービー)を導入した。簡単操作で様々な演出を施すことができ、生徒自身が進んで操作方法を習得し、意欲的に活動に取り組んだ。

### ・対象生徒の事後の変化

写真撮影が確実にできるようになり、自信をつけることで、自分自身の参加する全校集会や学校行事、委員会活動等の記録写真を自分の力で撮影してみようという意欲が高まった。



写真1 どっちもクリップによる固定

## 【報告者の気づきとエビデンス】

### ・主観的気づき

生徒自ら校内の様々な場所で生活環境の様子をモニタで見ながら確認していくことで、ゴミのたくさんたまっている場所を見つけ、カメラのピンチアウトによるズーム機能を活用して、その場所をさらに確認し、詳細な様子を観察することができた。(写真2参照)このことで、ゴミのたまりやすい場所の特徴に気づくことができた。(凹凸の多い場所、部屋の隅等)

学習発表会当日は、100名以上の参加者を前にして、生徒一人で舞台上に立ち自らの調べた内容についてiPadを自ら操作しながら自分の言葉で発表した。(写真3参照)iMovieの簡単な操作方法について教師が手本を1度だけ示すことで、生徒自身が操作方法を感覚的に理解し、iPadに収録された写真や動画を自ら編集画面にドロップして予告編ムービーを30本以上制作した。その後、教師と協力して、発表会用の報告ムービーを作成した。ナレーションの録音では、日頃はあまり大きな声でしゃべることの少ない本生徒が、ビデオ編集に興味関心が高まったことで、大きな声でセリフを録音することができた。



写真2 清掃した結果を生徒自らiPadで撮影



写真3 学習発表会の舞台上、プレゼンシートを操作しながら発表

### ・エビデンス

昨年度の発表会(事前のステージでの練習を含む)と比較して、教師が隣にいても、一人で声を出して発表する回数が増加した。(表1参照) iPadを使って発表することが、本人の自信の高まりにつながったと考えられる。

<表1 発表回数の比較>

	発表回数(練習・当日)	一人で声を出して発表した回数
平成 23 年度(中学部 1 年時)	9	0
平成 24 年度(中学部 2 年時)	<b>8</b>	<b>4(総練習・当日含む)</b>

・その他エピソード

写真撮影が確実にできるようになり、自信をつけることで、全校集会や保護者とのふれあいスポーツ行事、委員会活動での話し合いの結果を写真に残す等の記録写真を自分の力で撮影してみようという意欲が高まった。(写真4参照)また、iMovieの操作に慣れ、様々な動画作品を作りあげた。その作品を職場体験学習で事業所より高い評価をもらい、本人の自信の高まりにつながった。(写真5参照)そして、卒業生を送る会に向けて、全校卒業生の写真をiMovieで編集し、はなむけの動画作品を制作し発表することで、できることが増えてきたという実感を得ることができた。

来年度以降も日常的にiPadを使用した学習を実践し、生徒自身の意欲と自信の高まりにつなげていきたいと考えている。

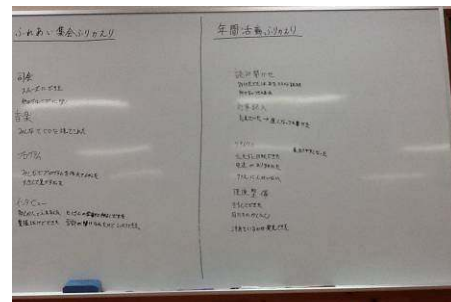


写真4 委員会活動の話し合い結果を自ら撮影



写真5 iMovieで予告編動画を作成中